



AIIC 粘菌の会 会報

第 20 号 令和 2 年

2020 年 12 月 1 日発行

新型コロナウイルス感染という思いがけない不安の続く一年間となりました。

ステイホームや集団行動が制約される日常でしたが、粘菌との出会いや観察は今年なりにできたようです。地域の人々の温かい協力を得て、手作り博物館の充実や冊子発行も進みました。自然への尊さに気づき、美しい地球と楽しい仲間たちの輪が広がっていくことを願います。



上総富士の夕暮れ(君津市)

君津の森にて観察会実施

2017 年 6 月



11/16 AM9:27

野口聡一さん、半年の単身赴任
宇宙ステーションへ出発！

「……ジェット機が飛ぶ高度で採集された孢子……」と増井君の本にありました。粘菌が宇宙へ旅立つ日も近そうですね！！

お便り紹介

11/2 増田さん家族より

…以前持ち帰った木ですが、オレンジ色の粘菌みたいなものは乾燥して消えてしまいました。放置後数日で木の裏側に薄紫色のカビっぽいのが現れました。

その後に白い物が生えたので写真を撮りました。今はもう消えてしまっています。

どこへ行ってしまったのか…??

—粘菌？ 粘菌もどき？ きのこ？

まだまだ？が続きますー



11/9 上林さんより(名古屋在住)

昨年秋の台風被害後、ボランティア支援で博物館に駆けつけてくれた彼女からメールを頂きました。

・秋の博物館周辺を再び歩いてみたい。

・昨年一緒に考えたチチマメホコリ？が朽ち木に定住？ 今後に期待！です。

・HP(まちサポ…)の会報は楽しみです。

市原市のコミュニティの皆様や世界の人々への発信の機会となりますね。



チチマメホコリ

～それぞれの場所で粘菌を思う仲間の存在は嬉しいものです。～

行事予定

12月5日(土) 定例会 12:30

新年1月9日(土) 定例会

コロナウイルス感染の状況に

よっては中止、変更があります。



粘菌ときのこと

博物館入り口のシイの古木に発生！

☆粘菌(自然発生)

しいたけ(人間による菌植え)

文責 中村(良)

2020 年

年の瀬を迎えて



雨上がりの森

倒木に現れた

粘菌の変形体

市原市能満地区

2020・7/12

今年世界的なコロナ禍のために生活スタイル、働き方も変わりました。コロナで始まりコロナで年を送ることとなりました。

ウィルス感染は今に始まったことではなく過去にも度々歴史的な禍いを引き起こしてきました。人類は手探りで解決を試みましたが未知のウィルスに対してはいまだに決定打はありません。多様な生物が生きる自然環境とは何かをあまり学ぶことなく月日を送って来た感があります。

テレワークシステムや AI を活用すれば不安のない生活を取り戻せるものと考えられていますが、人との出会いが与える実体験の欠如、仕事と生活の区別のつけ方、AI の使い方など新たな問題があります。新しいしくみを活用するときは新薬と同じで、副作用を考えないと思わぬ落とし穴に落ちることになります。

近頃は何かにつけて総合的や多様性の専門用語が使われていますが、意味不明のまま用語だけがひとり歩きしているようです。

総合とは総合ビタミン剤を例に挙げると、その説明書にはビタミン A.B1.B2...がどれくらい含まれているか書いてありますが、正しくは総合ビタミン剤とはいえません。未知のビタミン剤が予想されるからです。また、多様性とは個々の異なる性質で総合を作り上げる成分となります。自然界では総合は自然環境であり、生物が生きるためには欠かせない、万物が関係し合うネットワークとなります。ネットワークは日々変化していて、個々の生物は生きるために有効活用しています。要するに総合という言葉を使う場合は、これを構成する個々がどのように関係しているのか説明できなくてはなりません。

新型コロナウイルス感染で分かったことはウィルス自体以上に環境との関わりがほとんど未知であることです。AI でこの関わり方を調べようとしても未知なるデータには無力です。大量な既知のデータを調べることで天気予報に役立っても、自然環境のしくみは未知の要素が多く、感染症を通して世界は生死をかけての環境問題に直面しています。

私たちは多くの粘菌を観察して、何億年もの間、他種と関わり合いを持ちながらも今にその姿を輝かしている、その秘密を探ろうと、生育地の土壌成分や粘菌に群がる虫たちの特徴を調べています。自然環境を大事にしたいという思いのもと粘菌が教える自然環境とは何かをこれからも学びたいと考えています。